



地域研究集会

## 2020 年度九州沖縄地区合同シンポジウム 「南西諸島近海における大気・海洋・生態系」プログラム

日 時：2020 年 12 月 11 日（金）

開催方法：現地開催及び Zoom 上でのオンライン開催

現地会場：琉球大学 50 周年記念館多目的室 AB（琉球大学南口近く）

琉球大学までのアクセス→<https://www.u-ryukyu.ac.jp/access>

キャンパスマップ→<https://www.u-ryukyu.ac.jp/campus-map/>

50 周年記念館→[https://gspd.skr.u-ryukyu.ac.jp/gakusaibu/kenkyu/?page\\_id=19](https://gspd.skr.u-ryukyu.ac.jp/gakusaibu/kenkyu/?page_id=19)

参加申込：<https://forms.gle/yg7wL2ETRjv2j2Y99>（締切：11 月 27 日，定員になり次第締切）

講演時間：1 件当たり 20 分（講演 15 分＋質疑 5 分）

共 催：日本海洋学会西南支部，日本海洋学会沿岸海洋研究会

コンビナー：伊藤耕介（琉球大学），秋田雄一（沖縄県水産海洋技術センター），碓氷典久（気象研究所）

開場	10:00
挨拶：山下 洋（一般社団法人水産海洋学会長）	10:30-10:35
趣旨説明・事務連絡	10:35-10:40
セッション 1	座長：碓氷典久（気象研究所）
1. 日本沿岸海況監視予測システムについて	10:40-11:00
瀬河孝博・宮内誠司・藤本梨沙（沖縄気象台）	
2. 数値モデリングによる東シナ海の内部波エネルギーの解析	11:00-11:20
辻 英一・広瀬直毅（九州大学）	
3. 【Zoom 講演の可能性あり】長期フェリー ADCP 資料から得られた甌海峡の流動分布	11:20-11:40
四柳仁寿・滝川哲太郎（長崎大学）・櫻井正輝（鹿児島県水産技術開発センター）・ 広瀬直毅（九州大学）	
休憩	11:40-13:00
セッション 2	座長：広瀬直毅（九州大学）
4. 海水交換率を基とした海洋温度差発電のポテンシャル再評価	13:00-13:20
本島太郎・劉 天然・広瀬直毅（九州大学）	
5. 東シナ海海面水温と黒潮変動の関係	13:20-13:40
碓氷典久・広瀬成章（気象研究所）	
6. 大気海洋生態系結合モデルにより再現された 2018 年台風第 24 号通過に対する海洋応答	13:40-14:00
伊藤耕介・山田広幸・栗原晴子・宮田龍太・平野創一郎（琉球大学）・ 坂本 圭・豊田隆寛（気象研究所）	



休憩

14:00-14:10

セッション 3

座長：栗原晴子（琉球大学）

7. 沖縄県産魚介類に寄生するアニサキスについて  
当眞 弘・岸本英博（琉球大学）  
14:10-14:30
8. 温暖化は亜熱帯の魚にも影響を及ぼすか？  
秋田雄一（沖縄県水産海洋技術センター）  
14:30-14:50
9. 【Zoom 講演の可能性あり】2020 年初夏の東シナ海・南西諸島弧における表層海水中の植物プランクトン群集構成  
山脇信博・筒井英人・鈴木利一・合澤 格・保科草太・木下 宰・森井康宏（長崎大学）・R.W.ジョルダン（山形大学）  
14:50-15:10
10. 【Zoom 講演の可能性あり】High abundance of *Nanipora* (Octocorallia: Helioporacea) at an acidified reef in southern Japan  
Iori Mizukami, Haruko Kurihara (Univ. Ryukyus), Timothy Ravasi (OIST), Yoichi Ide (Oceanic Planning Corp.), Michael Izumiyama (OIST), Hajime Kayanne (Univ. Tokyo), and James Reimer (Univ. Ryukyus)  
15:10-15:30

休憩

15:30-15:40

セッション 4

座長：秋田雄一（沖縄県水産海洋技術センター）

11. 【基調講演】八重山海域での異常高水温攪乱とサンゴ群集の変化  
中村 崇・Mariyam Shidha Afzal（琉球大学）・小島（池田）香奈（海の再生ネットワーク与論）  
15:40-16:20
12. 気候変動に対する熱帯藻場域の被食者-捕食者応答  
Vina Listiawati・栗原晴子（琉球大学）  
16:20-16:40
13. 苗床環境がオキナワモズクの養殖生産量に与える影響—備瀬崎における産学共同研究成果報告—  
佐藤陽一・名越日佳理（理研食品）・伊藤通浩・小西照子・藤村弘行（琉球大学）・Gregory N Nishihara（長崎大学）・田中厚子（琉球大学）  
16:40-17:00

総合討論

17:00-17:30

閉会の言葉

17:30-17:35

**開催趣旨：**南西諸島は、広大な海の中に浮かぶ数多くの島嶼からなる地域である。薩南諸島・沖縄諸島のほか、宮古列島・八重山列島からなる先島諸島、大東諸島、尖閣諸島で構成されており、そのいずれも、周囲を取り囲む海洋に大きな影響を受けている。近海には黒潮が流れており、亜熱帯に位置することから、1年を通じて比較的温暖な気候に恵まれている。また、地域特性として、サンゴ礁や多様な魚種がみられることも特徴のひとつである。島に暮らす人々は古くから海の恵みを得つつ、ときに台風などに伴う極端な気象・海象に苛まれながら生活を営んできた。

近年、地球規模の気候変化が徐々に進行しており、南西諸島近海でも海面水温の上昇や海洋酸性化による悪



影響が懸念されている。島嶼部の気温や空気中の水蒸気量は海面水温に鋭敏であるため、将来的には、熱中症患者や豪雨の発生頻度も増えることが予測されている。また、水温の上昇や海洋酸性化が、モズクに代表される藻類や魚類の地理的な分布の変化、養殖業における生産管理の困難さ、サンゴの白化や死滅などを引き起こすため、南西諸島近海における生態系とそれに連なる人間社会は大きな影響を受けると考えられる。

上述の例に代表されるように、南西諸島近海における研究テーマには、大気・海洋・生態系などの諸分野にまたがったものが多い。そこで、各分野の専門家が一堂に会して議論をする場を設けることは、各個人が有益な知見を得て、研究を発展させるために重要だと考えられる。このような背景に鑑み、本シンポジウムでは、研究手法を問わず、この海域における大気・海洋・生態系の各分野の研究、それらの相互作用の研究、及び、基礎研究に関する発表を募集する。この機会が、多くの分野の研究者の交流を促し、南西諸島近海における諸現象の理解やその応用に資することを期待する。なお、新型コロナウイルス感染症対策として、現地参加とオンライン参加の同時開催を予定している。状況によっては、全体をオンライン開催とする等の可能性があることにご留意いただきたい。